

令和2年度事業報告書  
令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人 パシフィカ・ルネサンス

## 1. 令和2年度の活動の概要

NPO法人設立から7年目となり、昨年度より継続してミクロネシア連邦ポーンパイ州における現地での活動とオセアニア島嶼国の人々を対象としたインターネットでの情報提供や協働を中心に継続的に行った。特にオセアニアの伝統文化・歴史・文化遺産に関する記録・調査・教育事業とオセアニアの関連機関・団体への技術協力事業に力を入れて活動した。ただ今年度は8月以降コロナ禍のため現地での活動が再開できず、日本国内でできる活動を行った。当NPOの本来の目的たる事業、特にポーンパイ州・ヤップ州での事業は順調に展開しつつあるが、NPOの厳しい財政状況は変わらず、今後継続的な活動を行うために広報活動に更なる努力が必要である。当NPOはまだ財政・人力的に十分とは言えないため、ミッションに賛同するオセアニアの団体や個人との連携の道を探っており、私達の活動の他地域への拡大や波及効果を狙っている。

## 2. 事業の成果

### (1) 特定非営利活動に掛かる事業

#### ①オセアニアの伝統文化・歴史・文化遺産に関する記録・調査・教育事業

##### ◆ポーンパイ州での口承伝承の記録

今年度も、長岡代表理事はポーンパイ島において消滅しつつある口承伝承を老人からビデオにより記録し、その語りの動画をインターネットで配信するプロジェクトをポーンパイ州の文化行政を担当する同州歴史保存局と協働で行い、6本のビデオを配信した(図1)。記録した語りの動画は、ミクロネシア連邦とともに米国在住(ミクロネシア連邦全人口の3分の1が出稼ぎに出ている)のミクロネシア人が見ることができるよう、NPOのユーチューブ・チャンネル(<https://goo.gl/q89XA5>)で公開している。ユーチューブへのアクセス数が増加しているように、現地住民によるこのプロジェクトへの認知が広がっており、効果は上がりつつある。

収支実績：費用118,760円



図1. ポーンパイ人伝統首長への聞き取り

### ◆インターネットを利用した伝統文化・歴史に関する情報の発信

当 NPO は、現在、フェイスブックとユーチューブを利用して、NPO 活動やオセアニアの文化や歴史に関する情報を発信している。平成 26 年 5 月に開設した NPO のフェイスブック・ページ（以下「FB ページ」、<https://goo.gl/6wjZYV>）では、昨年度までは毎週オセアニアの伝統文化・歴史に関する情報や NPO の活動について英語と日本語で発信していたが、今年度は現地でのプロジェクトなどで多忙のため毎月 1.75 回程度（計 21 回）の発信にとどまった。事業年度末の段階で 12,897（昨年度末 10,937 人）がファンとして登録しており、昨年度からのファン数の増加率は 17.9%（昨年度 10.6%）となっている（図 2）。このファン数は、オセアニア地域の文化的分野で活動している組織の中では有数の数となっている。内訳としては、多くのミクロネシア人が出稼ぎに行っている米国・米領グアムで 46%、ミクロネシア連邦 9%、ソロモン諸島 6%、北マリアナ連邦・オーストラリア・日本が 5%、その他オセアニア諸国で 17%となっている（図 3）。

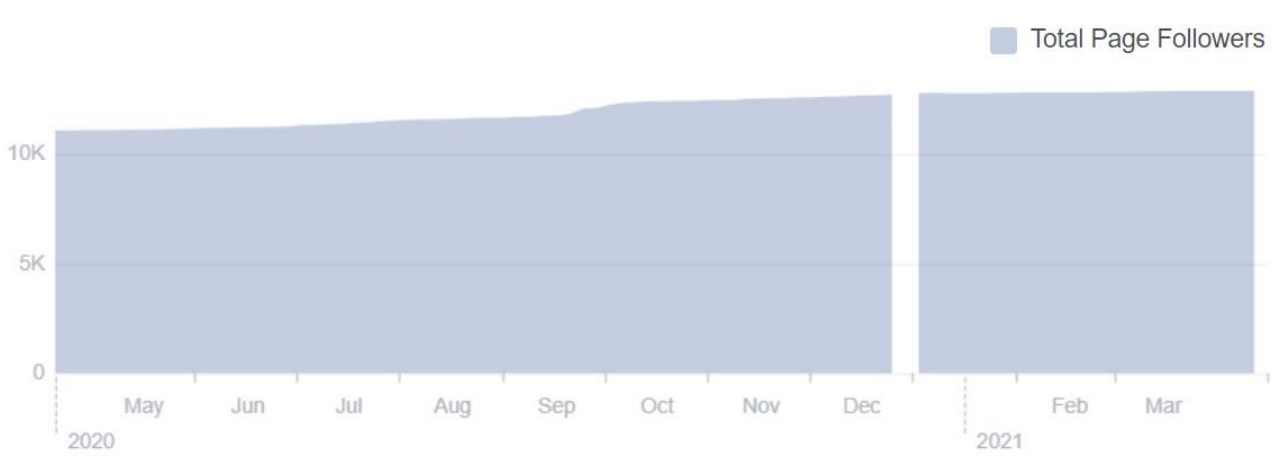


図 2. 今年度の FB ページのファン数の増加

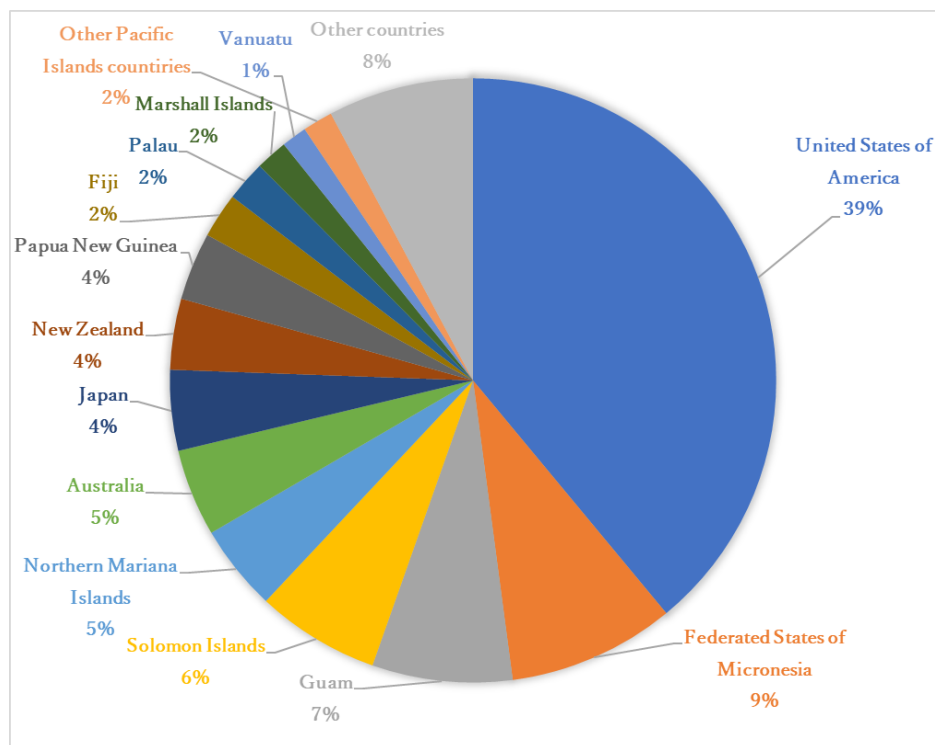


図 3. NPO の FB ページのファンの国・地域別内訳

またこのFB ページへの投稿より広い内容を投稿したり、オセアニアの人々自身による情報・意見交換への参加を促進したりできるように、平成 27 年 3 月に開設したフェイスブック・グループ「Pasifika Renaissance」 (<https://goo.gl/SwhbGt>) も、メンバー数が昨年度末 4,514 人から今年度末 6,007 人と 33% 増加しており、活発に活用されている。また同年 7 月に日本人向けのオセアニア関係の情報交換の場として開設した「オセアニアの島が好き！」 (<https://bit.ly/3pBHPC5>) には 223 人 (193 人) が参加している。

当NPOは、教育普及活動の一環として、ユーチューブ・チャンネルでさまざまなビデオを公開しており、国内外で行われるオセアニアに関する講演や研究発表などをビデオで記録する活動やさまざまな機関で保管されているビデオの公開を働きかける活動を継続して行っている（後述）。今年度は、長岡代表理事がポンペイとヤップで撮影した口頭伝承の語り（ポンペイ6本、ヤップ6本）、後述するヤップ（510本）、モキッロ（118本）、パプアニューギニア（8本）の資料、ポンペイとヤップの島の風景（12本）、伝統航海術コース（24本）、講演（1本）、その他（1本）の計686本のビデオを共有した。公開されているビデオは、今年度末で1207本と昨年度末（621本）と比較して倍増した。これにともない、今年度の視聴回数は552,286回（昨年度480,295回）、1日平均1,513回（昨年度1,316回）と増加した（図4）。このチャンネルで公開している動画は、ミクロネシア連邦に関連するものが大部分であるため、視聴者もミクロネシア人が中心になっていると思われ、米国領46.0%（47.4%）・ミクロネシア連邦26.1%（30.6%）で全体72.1%（77.0%）を占める。購読者数は昨年度末3,227人から今年度末4,499人と39.4%増加している。

7月から11月にかけてシュルツ八坂メンバーとコンロイ河野ボランティアがユーチューブのビデオを多くの人々の目にとまるように、788本のビデオのサムネイル画像を作成（図5）。



図 4. 今年度の NPO ユーチューブ・チャンネルの日別視聴回数



図 5. ユーチューブ・ビデオのサムネイル画像のサンプル



#### ◆ヤップ州での伝統航海術コースのビデオによる記録

2019年に長岡代表理事がヤップ島でカロリン諸島の伝統航海術コースのビデオによる記録を行った。このプロジェクトは、失われつつある伝統航海術を学ぶための情報が限られているため、インターネットで公開するためのビデオの制作を著名な伝統航海士であるアリ・ハレヤルール氏に打診し、ミクロネシア連邦歴史保存局を通してユネスコへ申請した助成金を得て、実現に至った。プロジェクトにより、ミクロネシア人の5人の若者に航海術が伝授されたとともに、2時間の英語版のビデオと23日間のコースを記録したビデオが撮影された。今年度は伝統航海術に関する初めて教育ビデオとなるこれらのビデオの編集が終わり（図6）、当NPOのユーチューブ・チャンネルで（<https://bit.ly/2ZmFMV0>）、プロジェクト報告書（<https://bit.ly/3i6bHCo>）をフェイスブックで公開した。

長岡代表理事による「カロリン諸島の伝統航海術に関する初めての教育ビデオがオンラインで公開」という記事（英文）が、地元ミクロネシアの新聞『*The Kaselehlie Press*』に掲載された。（<https://bit.ly/2SngSG3>）

このプロジェクトは、カロリン諸島の伝統航海術をユネスコの無形文化遺産に登録しようというミクロネシア連邦の努力にも貢献する。

収支実績：収益359,411円、費用477,747円

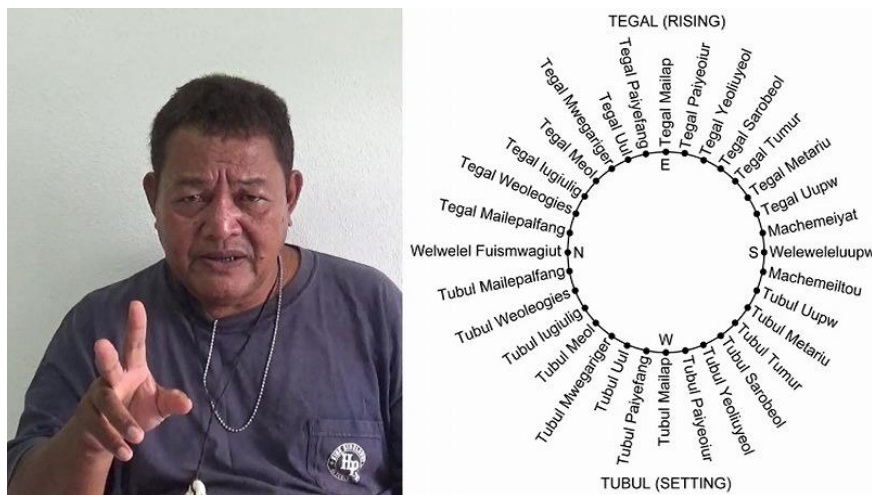


図6. 英語版のビデオ

#### ◆ポーンパイ州の伝統文化教育の教材の作成

ポーンパイ州の伝統文化教育（ポーンパイ・スタディーズ）の教材（歴史・文化の副読本、年表のポスター、教師用資料手引、州教育局HPでの資料共有）を州教育局と協働して製作するプロジェクトに対して、ミクロネシア連邦歴史保存局を通して申請したユネスコへの助成金も採択され、昨年度より開始した。州教育局の担当者との話し合いにもとづき、各島の歴史の副読本を協働して制作する小学校の先生と作成に取り組んでおり、来年度に離島4島の副読本を完成させ、印刷する予定である。

収支実績：費用831,458円

#### ◆ポーンパイ島での文化的な活動の記録

長岡代表理事がポーンパイ滞在中に地元や訪問中の研究者にミクロネシア短大で講演をお願いし、それを撮影したビデオや文化的な活動を記録したビデオを当NPOのユーチューブ・チャンネルで公開する活動を行っている。今年度は過去に撮りためていた映像の中から島の風景を撮影したビデオを12点共有した。

#### ◆オセアニア関係の資料の公開

当 NPO では、個人や機関が所有している音声・映像資料の公開を進めている。長岡代表理事は昨年度のマイクロネシア、ヤップ島での活動（前述）の際にヤップ州メディア・プロトコル局と歴史保存局が所有している昔話や歌謡の音声資料や伝統舞踊などの多数の料を共有していただいた。昨年度、当 NPO のユーチューブ・チャンネルで 51 点を公開し、今年度も 510 点を公開した(<https://bit.ly/2SdLhH5>)。また 2000 年代初めに長岡代表理事とバーバラ・ヒックス氏が記録したモキッロ環礁の口頭伝承の音声資料をユーチューブで公開を開始し、118 点を公開した (<https://bit.ly/2Sd3DId>)。

その他ロシア人研究者にシェアしていただいたパプアニューギニアのビデオ 8 点、長嶋理事が撮影した篠遠喜彦氏追悼シンポジウムのビデオも公開した。米国のスミソニアン協会が保有しているポンペイ島などの音声資料の活用について話し合いを始めた。ヤップとモキッロの資料は継続的に公開していく予定である。

#### ◆太平洋仮想博物館プロジェクトに参加

11 月にニュージーランド国立図書館が立ち上げた太平洋仮想博物館プロジェクトに参加した。これは太平洋諸国の政府機関や NGO などが太平洋の文化遺産のリソースを見つけアクセスすることを容易にすることを目的とした取り組みで、当 NPO は内容提供者としてデジタル・パシフィカのウェブサイト (<https://digitalpasifik.org/>) に 1251 本のビデオを共有した。

#### ◆日本国内におけるオセアニアの伝統文化、歴史、文化遺産に関する教育

日本人を対象にしてオセアニアの文化や歴史や当 NPO の活動に対する理解を深めるため、またオセアニアの人々へ情報を提供するために、日本語版・英語版の NPO のホームページの開設を準備中であり、プロボノの Josh Levy 氏に英語の校正をしていただき、NPO メンバーの磯崎淑子氏からアドバイスをいただいたが、他のプロジェクトの忙しさから、それ以上進めることができなかった。

11 月にホームページ制作のために IT 導入補助金を申請し、1 月に採択されたため、本格的な制作に取り掛かった。2 月から文章などの完成に取り組んでおり、来年度前半に公開予定である。

#### ②オセアニアの関連機関・団体への技術協力事業

##### ◆ポンペイ州歴史保存局との協働・技術協力

前述したように、ポンペイ州で文化財行政を担当している州歴史保存局と協働して口頭伝承記録を行っている。これは将来的に同局によりこのような事業が行われるようになることを目指しての技術協力である。また随時、同局の要請に応じてさまざまなアドバイスや情報なども提供している。

##### ◆世界遺産ナンマトルに関する技術協力

長岡代表理事が国際チームの一員として協力をを行い、2016 年に世界遺産に登録されたナンマトル遺跡の保存・管理に関する助言・協力をマイクロネシア連邦・ポンペイ州歴史保存局に対して随時行っている。米国大使歴史保存基金からの助成金を得た米国のグループが、遺跡の保全計画を作成することになり、情報・意見交換を行っている。また遺跡のパンフレットの作成を片岡修上智大学客員教授とともにマイクロネシア連邦公文書館・文化・歴史保存局と話し合いを始めている。ナンマトルの保全活用に関しては NPO メンバーの斎藤弘之氏から随時アドバイスをいただいている。

##### ◆ポンペイ州ソケース山の公園化に対する技術協力

平成 27 年度、ソケース山を歴史・リクリエーション公園として整備するポンペイ州の事業において、当 NPO が契約の業務として整備計画・マネジメントプラン・ツアーガイド・マニュアルの作成を担当

当した。平成 29 年度は整備計画の最終案に関するプレゼンテーションを政府関係者に対して行い、承認を得られ、平成 30 度は受注業者が工事を開始し、当 NPO は工事の管理を行う業務に対して契約を行うことになっていた。しかし、業者の工事開始の遅れており、今後の見通しが立っていない。この事業に関しては NPO メンバーの斎藤弘之氏から随時アドバイスをいただいている。

#### ◆ポーンパイ州カルチュラルデーへの協力

毎年、ポーンパイ州で開催されるカルチュラルデーは、伝統文化を振興する良い機会であると捉え、当 NPO は平成 29 年度より州政府の関連部署などから構成される実行委員会に協力を始め、フェイスブック・ページ (<https://goo.gl/7kM8Fm>) での広報、行事の撮影などで協力を行っている。長岡代表理事は今年度も 1 月から実行委員会に参加していたが、コロナ禍のために中止となった。

#### ③オセアニアの観光及び日本との交流・友好を促進する事業

##### ◆ポーンパイ島でのカルチュラル・ツーリズムの促進

平成 30 年度にポーンパイ島でのカルチュラル・ツーリズムの企画について話し合っていた旅行業者が、一昨年倒産したため、今後この事業について見直しを行う必要がある。

#### ④その他目的を達成するために必要な事業

今年度は実施しなかった。

#### ⑤広報活動

広報活動の一環として、英語と日本語のニュースレター『パシルネ・ニュースレター』を発行しているが、平成 29 年度から作成されておらず、今後早急に作成する必要がある。

4 月に国際公文書館会議のウェブサイトにも当 NPO のユーチューブ上のデジタル・コレクションについての情報を共有する (<https://bit.ly/3xcfqVI>)。

2 月に長岡代表理事とピーター・シェパード教授（オークランド大学）による彼らの新しい学術論文を紹介する「ポーンパイで発見された古い石斧からの新しい情報」という記事（英文）が、地元マイクロネシアの新聞『*The Kaselehlie Press*』に掲載された (<https://bit.ly/3iu67wr>)。

#### ⑥その他の活動

NPO の資金調達の一環としてスマホや PC から簡単に寄付ができるソフトバンクの「つながる募金」の利用を開始した (<https://bit.ly/2TeOpCm>)。今後、いろいろな資金調達の仕組みの導入を図っていく予定である。

#### ◆ポーンパイ島での考古学調査

一昨年度より 4 年間の予定で、長岡代表理事が調査チームに加わっている、新しい考古学調査プロジェクト「オセアニアの人類移住と島嶼間ネットワークに関わる考古学的研究」（科学研究費（国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)、研究代表者：小野 林太郎（国立民族学博物館）、18KK0019）が、ポーンパイ島で開始された。この調査は、まだ実態の解明されていない初期居住期に焦点を当てて、ポーンパイ州歴史保存局と協働して行われる。

当 NPO は現地住民に自分達の歴史について興味を持ってもらう良い機会と捉え、過去 2 回の発掘調査の際にフェイスブック上で現地人のボランティアを募集し、調査成果を一般の人々に共有するために出土遺物の展示を行い、小学校・高校の生徒にこのプロジェクトとマイクロネシアの考古学についてのパワ

ーポイントによるプレゼンテーションを行った。今年度も継続して現地調査が行われる予定だったが、コロナ禍のために中止となった。

## (2) 特定非営利活動に掛かる事業

### ①物品販売事業

今年度は実施しなかった。

### ②コンサルタント事業

今年度は実施しなかった。

## 3. 活動実績報告

### (1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
オセアニアの伝統文化・歴史・文化遺産に関する記録・調査・教育事業	ポーンパイ州での口承伝承の記録する	通年	ポーンパイ・ヤップ	1人	41,000人	118
	インターネットを利用した伝統文化・歴史に関する情報の発信する	通年	日本	3人	不特定多数	0
	ポーンパイ州の社会科教材を作成する	通年	日本・ポーンパイ	2人	30,000人	831
	ヤップ州で伝統航海術コースを記録する	4月～7月	ヤップ・ポーンパイ	2人	11,000人	477
	日本国内におけるオセアニアの伝統文化、歴史、文化遺産に関する教育を行う	通年	日本	3人	不特定多数	0
オセアニアの関連機関・団体への技術協力事業	ポーンパイ島ナンマドル遺跡の世界遺産登録への技術支援を行う	通年	日本・ポーンパイ	3人	30,000人	0
	ポーンパイ州歴史保存局に対する技術協力	通年	日本・ポーンパイ	3人	30,000人	0
オセアニアの観光及び日本との交流・友好を促進する事業	ポーンパイ島でのカルチュラル・ツーリズムを促進する	通年	日本・ポーンパイ	5人	30,000人	0
その他目的を達成するために必要な事業	随時目的達成のために行うその他の業務	事業実施せず				0



## (2)その他の事業

定款の 事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者の人数	支出額 (千円)
物品販売事業	現地の特産品などの販売	事業実施せず			0
コンサルタント事業	その他のコンサルタント業務	事業実施せず			0

## 4. 財政

今年度の収入は、年会費の27.5万円（昨年度32.5万円）、寄付金4万円（4.4万円）、ユネスコの助成を受けたカロリン諸島伝統航海術コース記録による事業収入の35.9万円（221.1万円）、YouTube収益の9.1万円、受取助成金の200万円を中心として276.7万円（278.6万円）であった。それに対し、今年度の支出は、事業費の191.1万円（296.6万円）（それぞれの事業の収支の内訳は3.活動実績報告を参照）と管理費の0万円（5万円）で、合計191.1万円（301.7万円）であった。前述したように、ソケース山公園化事業の新しい契約が結ばれておらず、ユネスコの助成を受けた1プロジェクトが終了せず、最終の報酬を受け取っていないが、補助金（200万円）を受け取ったため、85.5万円の黒字となり、通年でも131.2万円（196.3万円）の赤字、長期借入金も513.3万円（349.3万円）となっている（「活動計算書」「貸借対照表」「財産目録」「注記」参照）。年会費の納入率は90%（84%）と上がっているが、会員数もほぼ同数である（後述）。公的な助成を得づらく、収益事業の展開が難しい分野での活動であるため、新規会員の開拓、広報活動の強化、助成・受託事業の獲得、収益事業の模索などをはかり、財政の安定化に一層の努力が必要である。

国内で「オセアニア」・「文化」関係で申請できる助成金は限られており、計画しているプロジェクトに対しては主に海外の助成金に申請している。しかし昨年申請したカナダ政府の「ローカルなイニシアティブへのカナダ基金」への「『モートロック諸島人のへの移住』の出版」、ニュージーランド政府の「太平洋開発・保全基金」に現地NGOであるCare Micronesia共同で「ポーンペイの神話歴史のアニメーションの制作」は不採択であった。またポーンペイ州歴史保護局からの要請を受け「ポーンペイ州歴史保護5か年計画作成」というプロジェクトに対する助成金を申請したが、同局が米国公園サービス局から受け取るはずの補助金が遅れており、成立していない。今後、他の助成金に申請する必要がある。

## 5. 組織運営

NPOのメンバーも各地に散らばっているため、主にSNSチャットワークを通して話し合いや情報の共有を随時行っているほか、理事会には理事以外のメンバー全員もオブザーバーとして参加できるようにし、意識の共有をはかっている。

今年度の決算書類は、福井郁子氏が作成した。シュルツ八坂監事による業務・会計監査の結果、NPOは適正に運営されていると認められた。今後監事から提出された意見書で挙げられ、特に設立以来の課題となっている会計に関する提言に基づいて、組織運営の確立を目指す予定である。

## 6. 役員・顧問

昨年度からの第3期目の役員・顧問は以下の通りである。

### ◆役員

代表理事：長岡拓也

副代表理事：齋藤弘之（安城市教育委員会文化振興課）

理事：長島怜央（平安女学院大学助教）

監事：Yumi Schultz（開発コンサルタント）



◆顧問

川嶋正和（NPO 法人ミクロネシア振興協会事務局長）  
小西潤子（沖縄県立芸術大学教授）  
白川千尋（大阪大学教授）  
須藤健一（堺市博物館館長）

7. 会員・プロボノ

事業年度末で正会員は19名（昨年度末22名）、賛助会員は18名（17名）、法人会員は3法人（4法人）で、会員数は昨年度末から微減している。正会員のうち14名がSNSチャットワークでの話し合いに参加している。また4名のプロボノの方にデザイン・英文校正で協力していただいている。

会員・プロボノの皆さまには、この場を借りまして、感謝の意を表したい。

◆正会員（以下、あいうえお順・敬称略、氏名を公表することに同意いただいた方のみ）

井上雄二、川嶋正和、小西潤子、小林房代、斎藤弘之、佐々木宏夫、白川千尋、須藤健一、関根久雄、高瀬浩一、長岡拓也、長島怜央、Ben Schultz、益田兼房、松本いく子、宮澤京子、門田修、Yumi Schultz、薫ルルケド

◆賛助会員

磯崎淑子、上木原圭、大野志穂、大野康雄、川部浩子、小金丸梅夫、塩屋空、塩屋夕子、白川博章、白川由里、鈴木貴子、高瀬浩一、高橋正也、古澤拓郎、益田兼房、真野光宣、渡辺淑子、渡部悟

◆法人会員

株式会社森覚貫誠堂（[www.morikaku.org/](http://www.morikaku.org/)、[www.facebook.com/morikakukanseidou](https://www.facebook.com/morikakukanseidou)）  
ジェイピーエムズ株式会社（<http://www.jpms1125.com/>、[www.facebook.com/jpms1125/](https://www.facebook.com/jpms1125/)）  
一般財団法人国際協力推進協会（[apicinfo@apic.or.jp](mailto:apicinfo@apic.or.jp)）

◆プロボノ

室谷裕貴（会計）、Davidson Syne（デザイン）、Garry Scott、David Vega、Josh Levy（英文校正）

8. 助成事業によるパートナー

団体・機関名	事業名・事業内容
ミクロネシア連邦歴史保存局 令和元年5月～令和2年7月	ユネスコの助成金により、カロリン諸島の伝統航海術コースのビデオによる記録を行う
ミクロネシア連邦歴史保存局 令和元年4月～	ユネスコの助成金により、ポーンパイ州の伝統文化教育の教材の作成を行う

9. 総会・理事会

◆令和2年6月14日 第8回理事会

- (1) 第1号議案 令和元年度の事業報告および決算報告に関する件
- (2) 第2号議案 令和2年度の事業計画および活動予算に関する件
- (3) 第3号議案 長期借入金に関する件
- (4) 第4号議案 個人情報取扱規程に関する件
- (5) 第5号議案 その他

◆令和2年6月20日 第6回通常総会

- (1) 第1号議案 令和元年度の事業報告に関する件
- (2) 第2号議案 令和元年度の活動決算に関する件

- (3) 第3号議案 令和2年度の事業計画の報告に関する件
- (4) 第4号議案 令和2年度の活動予算の報告に関する件
- (4) 第5号議案 個人情報取扱規程の報告に関する件
- (5) 第6号議案 その他